

### 3 今後の指導に向けて

#### 【小学校国語】

- ① **漢字** …漢字に関しては、これまでも取り組みの必要性が指摘されている。「読み」「書き」共に課題を残している。設問ごとに、正答率の学校間の差が大きく、漢字を「使っているかどうか」が大きな要素となっている。基礎的・基本的な知識・技能ではあるが、一部習得が不十分である。定着に向けた授業や、朝学習の時間等を使った日常的・継続的な取り組みなどが求められる。辞書を積極的に活用して、語彙の拡充を図ると共に、文脈に合わせて正しい漢字を積極的に使っていく指導が必要である。また、宿題を出すなど、家庭と協力して学習習慣の確立も図っていく必要がある。
- ② **ことわざ** …意味や使い方を理解し、自分の表現に用いることができるようにすることが重要である。そのためには国語辞典やことわざ辞典などを使いながらの指導が必要である。
- ③ **ローマ字** …平成21年度は、ローマ字の読み、書きで課題を残していたが、本年度は出題がなかった。ローマ字習得が3年生からになり、コンピュータ使用機会の増加など必要性は高まっている。母音と子音を基礎とした規則性の理解を軸に、いっそうの定着化を促進し、積極的に使っていく必要がある。
- ④ **文や文章の構成** 言語事項における課題として指摘されていた。「一文を二文に分けて書く」や「文が句点によって区切られる」など、文や文章の構成について、各学年ごとに、実際に書く場面を積極的に取り入れて、自分の言葉として取り組む必要がある。
- ⑤ **資料や文章の内容を適切に捉える** 資料に表された情報を正確に読み取ったり、新聞や雑誌・広告など、日常生活における様々なメディアから正しく情報を捉えたりする指導が必要である。グラフの読み方、キャッチコピーや文字の大きさなど、適切に情報を取り出す学習を実際におこなうことが大切である。
- ⑥ **目的や意図に応じて、必要な内容を書く** 読み取った情報を的確に記述したり、スピーチの構成や表現を工夫したり、目的に応じて必要な内容を適切に書く取り組みが必要である。その際には、理由や根拠をもとに説明したり、構成や表現の工夫をしたりしながら、相手に伝わる文章を実際を書いて表現する場面を大切にしていかなければならない。

#### 【小学校算数】

- ① **四則計算** …四則計算に関しては、一年生から着実な定着を重ねていきたい。設問ごとに、正答率の学校間の差が大きく、実際に処理できているかどうか、細やかに指導していく必要がある。国語の漢字同様、定着に向けた授業や、朝学習の時間等を使った日常的・継続的な取り組みなどが求められる。また、宿題を出すなど、家庭と協力して学習習慣の確立も図っていく必要がある。
- ② **四捨五入** …数を四捨五入して概数で表すことについては、これまでも取り組みの必要性が指摘されている。概数は4年生で初出となる。授業評価をしっかりとおこない、習得できているのか、定着しているのかを、検討していく必要がある。
- ③ **図形** …「台形の面積」に関しては、明らかに指導の効果が上がっている。他の図形も含めて、求積に必要な情報（図形の長さ及び図形の性質）を取り出して面積を求めることについては、今後も確実な指導を続けていきたい。合同な三角形や立体の展開図など、図形の性質を基に事象を判断することについても、具体的な操作を伴いながら、図形への理解を深める指導が必要である。

- ④ **筋道を立てて考える** …特にB問題では、情報を読み取ったり数値を取り出したりし、条件を把握したり解決の見通しをもったりして、筋道を立てて考えることが要求されている。答えの成否ではなく、自ら考え、判断し、実行できる力を育む学習が必要とされている。
- ⑤ **理由や根拠をあげて説明する** …求め方を記述したり、理由を記述したりと、説明を文章に書く問題に課題がある。児童一人ひとりが、自分の課題・問題として、最も合理的な処理の仕方を選択し、自分の考えを表現し、伝え合い、交流した結果を自分に戻して再考するというサイクルを積極的に取り入れていく必要がある。

## 【中学校国語】

- ① **漢字** …漢字に関しては、小学校同様に、これまでも取り組みの必要性が指摘されている。「読み」については定着が見られるが、「書き」の方は、漢字の組み立てに着目したり、同じ漢字を用いた他の熟語を想起しながら、理解を深めていく必要がある。設問ごとに、正答率の学校間の差が大きく、小学校同様、漢字を普段から「使っているかどうか」が大きな要素になっている。家庭学習も含めた日常的・継続的な取り組みが必要である。小学校同様、国語辞典や漢和辞典を積極的に活用して、自ら学び、豊かな言語を獲得できる指導の工夫が必要である。
- ② **伝統的な言語文化** …古典の学習では、比喩などの表現技法に着目しながら、文脈の中で意味を理解する必要がある。歴史的仮名遣いや文語のきまりについて、音読したり朗読したりするを通して理解するように指導することが引き続き必要である。
- ③ **司会が果たす役割** …話し合いの際に司会が果たす役割について問う問題が出題されたが、参加者の提案について「なぜそう思うのですか」と発言した司会の意図を問う問題は正答率が高かったが、会話の流れを踏まえて司会が行う発言として適切なものを選ぶ設問では正答率が低下している。実際に司会を立てて話し合いをする場面を設定し、具体的に「司会が果たす役割」を理解していく必要がある。
- ④ **目的に応じて必要な情報を読み取る** …必要な情報を取り出して、関係づけて読んだり、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことへの取り組みが必要である。具体的で実用的な題材を設定し、どこを読めばよいのか見当をつけたり、情報を関連づけて読んだり、資料の特性を生かした読み方をするのが大切である。
- ⑤ **根拠を明確にして自分の考えを書く** …文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことへの取り組みが必要である。また、自分の考えを書く際には、相手に効果的に伝わるようにすることが大切である。そのためには、自分の考えや意見を明らかにし、考えの根拠となる事実を明確に示したり具体例を加えたりして、説明を工夫する必要がある。また、書いた文章を読み返して、取り上げた事実や具体例は読み手がイメージできる表現になっているかを確認することが大切である。

## 【中学校数学】

- ① **「数と式」領域** …学習指導要領に示された基本的な内容については、設問ごとに、正答率の学校間の差が大きく、町全体でも全国との差が10ポイント以上ある問題がある。単に数式を処理するのではなく、「意味理解」の力を問う設問が多い。授業での取り組みに加え、十分理解できていない生徒への補充学習等、着実な伸長を図りたい。
- ② **記述式問題** …全国的に、記述式問題に対する課題として、「予想した事柄を数学的な表現を用いて説明すること（事実・事柄の説明）」「問題解決の方法を数学的な表現を用いて説

明すること（方法の説明）」「事柄が成り立つ理由を説明すること（理由の説明）」の3つが挙げられており、寒川町でも同様に課題として挙げられる。これらは、「思考力・判断力・表現力」にあたり、数学科の評価観点では「数学的な見方や考え方」に該当する。実生活における事象を数学的な解釈に基づいて考察できるように指導することが大切であり、生徒自らが事柄を予想することができるように指導することや、帰納したり類推したりして予想を立て、その予想を明確に表現できるように指導することが大切である。

## 【全体として】

- ① **明確化・顕在化・行動化** …「テストや調査のために授業をしているのではない」のはもちろんのことであるが、児童生徒の学習が充実し、人間形成にプラスとなるよう定着が図られるよう、学力向上へ向けて授業を構成していかなければならない。しかしながら、漠然と取り組んでいくという段階ではなく、数値を参考にしながら、何にどのように取り組むのかを明確にし、それを見える形として表し、具体的に実際の動きをつくっていく必要がある。
- ② **学校独自性** …一方、小学校でも中学校でも、設問ごとに学校間での差が広がっている状況にある。どの学校にも、課題となる設問を見いだすことができるが、学校独自の課題と言ってもよい。学校の傾向は、児童生徒・家庭・教師・環境等の総体としての傾向である。町内小中学校で共通して取り組めること、学校独自に取り組めることを精査し、教職員間の合意のもと、具体的に実際の動きをつくっていく必要がある。
- ③ **校内研究と一体化した取り組み** …国語の研究をしている学校は国語が、算数の研究をしている学校は算数が伸びている状況にある。研究発表会を教科で行った学校は、確実にその教科での成果が見られている。学校をあげて組織的に研究をおこなうことが、授業力向上につながり、ひいては児童生徒の学力向上のみならず、教科に対する思い・自負心へもつながっていく。研究発表会の有無にかかわらず、授業力向上へ向けた研究の充実が望まれる。
- ④ **授業づくりを核とした学校づくり** …学習規律がしっかりしている授業では、児童生徒が落ち着いて学習に取り組めるのは言うまでもない。学校においては、学習規律は、学校生活全体の規律と密接に関わっており、授業力向上は児童生徒の学力向上のみならず、児童生徒の生活そのものを変えていくことにつながっていく。
- ⑤ **漢字に対する取り組み** …町内小中学校共通の課題である。定着に向けた授業の展開や、教材の工夫、細やかな指導等、検討する必要がある。通常の授業中のみならず、朝自習の時間を使ったり、宿題を出して家庭と協力して学習習慣の確立を図ったり、日常的・継続的に取り組んでいく必要がある。また、実際に本を読む機会を増やしていったり、漢字を使いながら文章を書く機会を積極的に増やしていき、普段から漢字の読み書きをしていきたい。
- ⑥ **数と計算に対する取り組み** …四則計算については、一年生から着実な定着を重ねていきたい。設問ごとに、正答率の学校間の差が大きく、実際に処理ができているのか、丁寧に指導していく必要がある。漢字と同様、日常的・継続的な取り組みが必要である。また、中学校の「数と式」領域についても、丁寧な指導を行うとともに、補充学習等を行い、確実に定着を図る必要がある。
- ⑦ **宿題や課題の組織的な検討** …特にA問題の正答率を上げていくためには、家庭での学習を習慣化・定着化させることが必須の課題であると指摘され続けている。授業の内容と家庭学習の宿題や課題のつながり、学校全体としての予習・復習、課題の設定等、担任や教科に任せるのではなく、組織的な検討が必要である。
- ⑧ **真正な「学び」の繰り返し** …現在の教育現場において、「決められた物事をバケツの中

に注ぎ込むイメージ」や「線路の上をゴール目指してひた走るイメージ」「悪いところをカルテを作って診断し治療するイメージ」等、「知識注入型」や「言っておしまい」「教えたはず」といった授業観・教育観・枠組みからはすでに離脱している。「自分で考える」→「表明する交流する」→「合意形成や問題解決を図る」→「自分の考えや視座を決め直す」といった、子どもが考えることを中心に据えた、真正な「学び」を繰り返していくことが、「読み取り捉える」ことにつながり、「話す・書く・説明する」につながっていくと考える。

町内でも、「伝え合う」や「すじみちをたてて考える」等、思考力・判断力・表現力に直結している研究も見られている。国語、算数・数学に限定せず、各教科内外において、児童生徒が自ら考えることができる授業実践が求められている。